

研究の概要

(1) 研究主題

自分の考えをもち、進んで対話し、深め合える子どもの育成

～日常生活とのつながりを重視した道徳授業を通して～

(2) 研究主題設定の理由

本校では、平成 28 年度から 30 年度までの 3 年次計画で、「特別の教科道徳」として教科化された「道徳の時間」に着目し、「心をひらき、ともに学ぶ子どもの育成」を研究主題とし、本校の子ども一人ひとりの自尊感情や子ども同士の関わり方をより高めていくことをねらいとし、研修を深めてきた。この研究は、発達の段階を踏まえて 6 年間の道徳教育を系統立てて推進しながら、小規模校の特質を生かした子ども一人ひとりを生かす教育の充実を図っていくというものでもあった。

3 年間の研究を経て、道徳教育の全体計画や年間指導計画、別葉などを作成することができ、6 年間を通して、系統立てた指導を行う基盤整備ができた。また、問題解決的な学習やシミュレーション問題を取り入れたことにより、「近二小の道徳授業」を確立することができ、従来の道徳授業とは異なる授業実践を蓄積することができた。さらに、子どもたちは、登場人物の心情や行動を考え、「自分だったらどうするか」といった自分事として問題解決を図る姿勢が身に付き、道徳の授業と日常生活とがつながるようになってきた。

一方、課題として、主に教師と子どもとの対話によって、ねらいとする価値へ迫る授業展開が多く、子ども同士の対話を活発に行わせるために手立てを工夫することや、シミュレーション問題を取り入れた問題解決的な学習の更なる実践の積み重ねや充実を図る必要があることが明らかになった。

そこで、本年度までの研究を生かし、問題解決的な学習に基づき、日常生活とのつながりを重視した道徳授業を目指すとともに、2020 年度から完全実施される新学習指導要領で重視されている「主体的・対話的で深い学び」となるように授業展開を充実させ、対話を促す教師の手立てを工夫し、継続して子どもたちを見取り、適切に評価していくことをねらいとし、研修を深めていくこととした。

以上のことから、本研究主題を「自分の考えをもち、進んで対話し、深め合える子どもの育成」、副主題を「日常生活とのつながりを重視した道徳授業を通して」と設定した。

(3) 研究主題のおさえ

自分の考えをもち、進んで対話し、深め合える子どもの育成

□自分の考えをもち、進んで対話する = 主体的、対話的に学ぶ

〈自分の考えをもち〉

○既習事項や経験などを基に、自分の考えに根拠をもち、授業に積極的に関わろうとする意欲を高め、主体的に学ぶこと。

〈進んで対話する〉

○教師や友達との対話だけではなく、自分自身の行動を振り返り自問自答する、自己内対話や、登場人物の心情に寄り添い、自我関与しながら読む、登場人物との対話など、多様な他者・対象との対話の往還を進んで行うこと。

□深め合える = 自他の尊重 深い学び

○自己内対話や多様な他者・対象との対話を往還することにより、自他の差異を尊重し、認め合い、思考を深め、見方や考え方を広げること。

| | | |
|--|---|--|
| <p align="center">【具体仮説1】</p> <p>道徳科の授業において、問題解決的な学習に基づく授業展開を充実させ、日常生活とのつながりを重視することにより、<u>自分の考えをもち</u>、自分事として捉え、自らの行動を振り返る子どもを育むことができるであろう。</p> | <p align="center">【具体仮説2】</p> <p>道徳科の授業において、発問・指示、問い返しを工夫し、板書を構造的にすることにより、自他の考えの違いに気付く、<u>進んで対話する</u>子どもを育むことができるであろう。</p> | <p align="center">【具体仮説3】</p> <p>「ねらい」と「学習の振り返り」との関連付けを図り、「評価シート」を活用し、継続的に見取り、指導に生かすことにより、互いに認め、<u>深め合える</u>子どもを育むことができるであろう。</p> |
|--|---|--|

| | | |
|---|--|---|
| <p align="center">〈研究内容1〉</p> <p align="center">○問題解決的な学習に基づく日常生活へのつながりを重視した授業展開の<u>充実</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・問題解決的な学習に基づく授業展開の充実 ・日常生活のつながりを重視したシミュレーションの記録・蓄積 | <p align="center">〈研究内容2〉</p> <p align="center">○対話を促す教師の手立ての<u>工夫</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・発問・指示、問い返しの工夫 ・構造的な板書の工夫 | <p align="center">〈研究内容3〉</p> <p align="center">○指導に生かす評価の<u>継続</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・「ねらい」と「学習の振り返り」との関連付け (子どもの記述からの評価) ・「評価シート」の活用による継続的な見取り (教師の記述からの評価) |
|---|--|---|

(5) 研究計画

| 学 期 | 1 年次(2019 年度) (研究計画の構想と立案) | 2 年次(2020 年度) (実践研究の蓄積と検証) |
|-------------|--|--|
| 1 学 期 | <ul style="list-style-type: none"> ○研究主題の設定 ○仮説の設定 ○研究内容の構想 ○道徳の全体計画・年間指導計画・別葉の見直し | <ul style="list-style-type: none"> ○研究仮説・内容の修正 ・1年次の課題を踏まえた研究仮説の修正と、それに基づく研究内容の具体化 |
| 2 学 期 | <ul style="list-style-type: none"> ○検証のための実践 ・研究授業 | <ul style="list-style-type: none"> ○検証のための実践 ・研究授業と協議会 |
| 3 学 期 | <ul style="list-style-type: none"> ○研究結果の整理 ・成果と課題の把握 | <ul style="list-style-type: none"> ○研究全体のまとめ ・成果と課題の把握 ○次年度の研究について |

(6) 研究構造図

